

日本テコンドー協会（ＪＴＡ）
２０１１年７月 理事会通信

２０１１年８月２６日
日本テコンドー協会
理事長 河 明生

ＪＴＡ１１０の設置

一、ＪＴＡ理事会は、加盟クラブ内における各種トラブルを未然に防止すべく「ＪＴＡ１１０」を設置する。

メールアドレス jta110@jita.jp

「ＪＴＡ１１０」は、管理担当者を通じて河明生理事長が必ず一読します。
些細なことでも構いません。

通知方法は「下記三」を、該当事例は「下記四」を参照してください。

ＪＴＡ本部は、客観的な立場から和解を促進・調停できる調停者を人選し、
クラブ内のトラブルの予兆を事前に察知し、すみやかにトラブルの芽を摘めるよう最大限努力します。

二、設置の理由

ＪＴＡにおいては、年齢、性別、職業、所得、社会的地位、国籍、民族等、一般的に人を識別・区別・差別する基準は何ら意味をもちません。

反国家・反社会集団に属していない方なら、どなたでも入会・入門を歓迎し、ＪＴＡ道衣を着用し、各種武道経験に関係なく、日本跆拳道の初心者として白帯から始めて頂いています。

門戸を開いているのは、ＪＴＡが「人の性は善である」という性善説に立っているからであり、平和な日本で武道を学ぼうとする事実そのものから向上心を観じ、あらゆる武道の中でＪＴＡを選んで頂いたという感謝の念から、その向上心と期待に報わねばならないという武道団体としての使命感があるからに他なりません。当然のことながら、新入門者の経歴をはじめとする各種プライバシーは保護されています。他方、どのような性格・性質をもつ方なのかは、クラブ内での稽古を通じて徐々に明らかにされていきます。

日本跆拳道という武道を志す同門の仲間として切磋琢磨し、日々の修練を通じたぶれない強い精神力、社会性を帯びた礼儀礼節を基底とするコミュニケーション能力、自己の人間力を高めるため文武両道を目指そうとする向上心等の前向きな人生観を涵養するためには、クラブ内における良好な人間関係の構築および堅持が不可欠です。

他方、現代の日本は、長引く不況による雇用不安、仕事や報酬激減、就職難等による経済的不安、大震災や大津波等の自然災害に対する恐怖心、国会や中央官庁の墮落、各種の不正不義発覚や異常犯罪の多発等により人心が乱れています。

このような状況下においては、仕事や就職、夫婦関係や育児、結婚や恋愛等の私生活がうまくいかず、二重三重のフラストレーションがたまり、些細なことから口論となり、事件に発展する傾向が否めません。

私は昨年、日本屈指の神社・出雲大社社務所の許諾を得、第21回全日本FT大会のポスターの最上段にしめ縄をおき、その下に「JTA七大精神」を掲載しました。

出雲大社の平和の偉業、「国譲りの儀」=和譲の精神を門人諸氏に伝達するためでした。

その主旨の一つは「JTA内では、和を尊び、もめごとの芽が生じて、双方が譲り合い争い毎は未然に防止するように」というものでした。

ところが遺憾ながら、上記のポスターを発表した矢先の2010年秋頃から、ある加盟クラブにおいて「内紛」が勃発しました。クラブ内が二つに割れてしまい、人間関係が乱れてしまいました。

JTA本部は、当該クラブ長から依頼を受け、客観的な立場から調停者を3名も選任し、当事者双方から事情聴衆し、客観的な立場から穏やかな収束をはかりました。

事件の端緒は、一方がうまくいかない私生活をクラブ内に持ち込んだからだと報告を受けました。

客観的にみると双方とも大人げないので、全日本大会を2ヶ月後に控え、「そういう余裕はないので、全日本大会が終わるまでいったん「休戦」するように」と双方を諭しました。

しかし、時すでに遅く、双方とも譲らず、結果として当該クラブ内の中立的な会員が、板挟みとなり、どちらにも与することができないため退会を余儀なくされました。まことに申し訳なく、また残念でなりません。

門人のみなさん。

週の大半を過ごす職場や家庭等でフラストレーションが爆発することはやむを得ないことではありますが、週に1~3回・約2時間を過ごすJTAクラブ内では、JTA道衣に着替え、帯をしめ、黙想を終えた瞬間から、私生活は一切持ち込まず、すべてをリセットし、携帯電話等を切ることで「過剰な情報」から我が身を解放して疲れている脳を休め、「武道家としての自分」に変身し、無心無欲で蹴り・突き・防御し、気合いを出すことで、さわやかな汗を流し、ストレスを発散し、リフレッシュして頂きたい。

稽古終了時の黙想を終え、道衣から私服に着替え、もとの自分に戻り、解散する迄のわずかな時間に同門の仲間との団らんを楽しみ、帰宅後、適切な運動をした結果として良好な睡眠がとれれば、現代病とも言える躁や鬱等の精神を病むことはないでしょう。この持続こそが平常心を保つ秘訣です。

私は、和を尊ぶ武道団体を標榜していながら、上記のような事態まねいたことにつき深く反省しております。

JTAは、基本的に加盟クラブの自治を尊重してきましたが、こういう事件が起きた以上、JTA本部としては何らかの対策が不可欠と判断しました。

官庁や企業等は、不祥事を隠蔽しようとする傾向がありますが、

我がJTAは、再発を防止し、まじめな会員が二度と不利益を被ることがないようにするため、起きてしまったことは、可能な限り事実として匿名で公表し、

その反省にもとづき再発防止をはかる必要性があると考えています。

火のないところに煙は立たない、のたとえ通り、トラブルには何らかの予兆があります。

その予兆(下記四参照)をJTA本部に電子メールで知らせて頂きたい、というのが設置の主旨です。

三、「JTA110」の通知方法 jta110@jita.jp

JTA加盟クラブ内の活動を通じて生じた各種トラブルや苦情等(以下「事件」という)の相談を受付ける。下記四を参照しながら、相談案件につき具体的に知らせていただきたい。

1, 相談者は匿名とする。

JTA本部は誰が相談者かを特定したり詮索したりしません。

また匿名でなかった場合でも、個人情報保護法にもとづき一切公表はしません。

2, 相談者は、各種フリーメール・アドレスを作成し、要点をまとめて送付して頂きたい。

「JTA110」に送付した後、当該フリーメール・アドレスを破棄して下さい。

3、相談の要点

相談者は次の内容を明記してください。

「事件」が起こった日時	例)平成23年8月頃
「事件」が起こったクラブ名	例)J T A * * T C、* * 大学体育会等
「事件」の内容	例)下記四参照
「事件」の「主犯」	例)* * * * 氏(フルネーム)。複数名可。
「事件」が継続しているか否かの状況	例)「事件」は続いており、収束できません

四、相談事例

- 1、傲慢でえびりちらしている者がおり、クラブ内の人間関係がぎくしゃくして困っている
- 2、練習の最中に、私生活(夫婦関係のもめごとや仕事の失敗等)を持ち込まれ不愉快で困っている
- 3、金を貸してほしいと相談された(貸してしまった)
- 4、アムウェイ等のルートセールスへの入会を勧誘された(入ってしまったがやめたい)
- 5、宗教への入信を勧誘された(入信してしまったがやめたい)
- 6、生命保険や自動車等の購入を勧められた(入ってしまった・買ってしまった)
- 7、J T A テコンドーではなく、他流のテコンドー、空手やキックボクシングを教えている。
ミット蹴りばかりなら、サウンドバックのあるフルコンタクト空手やキックボクシングの常設道場に入門している。J T A 本部のHPを見て共感し入会したのに偽装ではないのか。
- 8、女(男)の先輩に性的関係を迫られ断ったが、飲み会で自分だけが誘われたのではなく、二桁を超える被害者がいることを知った。男女の出会いをもとめて入会したわけではないので何とかして欲しい。
- 9、女(男)の先輩に交際を申し込まれたが断ったところ、自分を口説くよう後輩の女(男)をけしかけている。男女の出会いをもとめて入会したわけではないので何とかして欲しい。
- 10、OBと称する女(男)の先輩が、テコンドーに関係のないコンパや旅行等をクラブ長に内緒で頻繁に組織している。お金がかかり参加するのが大変なのだが、断りづらいので何とかして欲しい。
ある高校生は、そのOBが企画したスキー旅行に行くだけなのに、親には「テコンドーの合宿」と嘘をついて金をだしてもらい参加している。
- 11、励ましのメールの文書を誤解を招く部分だけ抜粋し他の会員に見せびらかしている
- 12、黒帯でない若者を「先生」と呼ばせている
- 13、その他